

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1408号 令和6年4月15日号

台湾次期政権は大丈夫か、そして日本は ……………本紙編集部…………	1
来年度から始まる「港湾荷役機械の水素稼働」……………	2
足し算より引き算で ……………	3
甲子園の入場料金が野球ブームに水を差す ……………	3
日本の林業政策は破綻する ……………	3
読者投稿 能登半島地震 現地の声〈第1回〉……………	4
「歯が生える」新薬が開発される……………	6
ゴジラ-1.0にアカデミー賞……………	6



3月24日 佐賀・唐津神社

本 社 〒847-0871 佐賀県唐津市東大島町 19-5
電話 090-3199-8446 no.shin.7771008@gmail.com
賛助購読料 年額 3,000円 (年10回発行)
ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発 行 所
中 央 情 報 通 信 社
編集長/谷田 透

台湾次期政権は大丈夫か、そして日本は…

本紙編集部

五月二十日から台湾の頼清徳（写真）新政権がスタートする。彼は蔡英文政権下では、民進党副総統を務め、中共に対しては強硬だと評価されていた人物である。中共からすれば、彼こそは兩岸関係に悪影響を及ぼすだろうと警戒していた独立派である。

中共では、台湾独立派などと呼んで分裂主義者だと批判されることの多い民進党だが、実際には李登輝総統時代から一貫して「台湾は台湾、中国は中国」と宣言している。中華民国の蒋介石が毛沢東に敗れて、日本領台湾省を戦後に管理していたアメリカ軍に頼み込んで台北に臨時亡命政府を置かせてもらった時から、台湾は、日本、アメリカ、中華民国、中華人民共和国の間で翻弄される運命となった。蒋介石が大陸の中国人だということは、中華民国が台湾に亡命政府を開いた時から、大陸への反転攻勢の拠点としか考えていなかったことを意味している。

大言壮語の蒋介石は、中華民国は清朝の領土を受け継ぐとそうぶいていたから、台湾も中華民国の領土だと言っていたのである。中華民国の国民党が中華人民共和国の共産党と、本格的な再戦争をしていないままで現在まで来ているので、清朝の領土を受け継ぐ権利はどちらにあるかという不毛な大言壮語合戦に決着はついていないのである。

その国民党のトップに立った李登輝が突然、台湾は民主選挙を実施して「民主主義国になる」と宣言したのだ。大言壮語合戦は、国民党の側から卓袱台返しをしたのである。

ある席で李登輝総統から流暢な日本語で講演を聞かせて頂いたが、蒋介石時代には台湾で日本語を使えば弾圧されたそうである。標準語も台湾語ではなく、蒋介石の命令で北京語にされていた。李登輝は日本留学で「台湾人のアイデンティティ」を強く出来たそうで、日本と台湾の強い結びつきにも気づいたのだ。そこから、台湾での「日本再認識運動」に発展して、日本統治時代から日本国台湾省時代に台湾を作り上げた日本人の偉人を顕彰する機運を盛り上げた。

さて、新政権の始まりに合わせて、中共からの宣伝工作、サイバー工作、国民党系ヤクザや右翼

を買収して社会不安を惹き起こし政治の不安定化を作り出す工作など予測できるが、まずは外交と経済の安全保障を確立するために、アメリカと日本に十分な支援を要請しなければならない。立法院が混乱して分裂する状況が続けば、新政権は外交と経済に活路を求めて民意を安定させる必要が出てくる。その為にも、日本人が台湾新政権との外交と経済の安保を応援する世論喚起が重要になってくる。

平成国際大学副学長で日本と台湾の関係について専門家である浅野和生氏は、今回の総統選挙では民進党支持層は底堅かったと見ており、台湾の民主主義は成熟していると分析する。選挙結果の得票数を見ても、民進党は四〇%、国民党は三三%、民衆党は二六%という比率であり、国民は蔡英文の「現状維持路線」を望んでいるだろうということが想像できる。頼清徳が蔡英文路線から極端に脱線することは考えにくい。と言うことは、我々日本人も、今まで通りの日台関係を維持するべきである。



そうなること、最も警戒しなければならないことは「拳骨の降ろし所が見つからない習近平が、内部矛盾を外部転嫁する言い訳」として、台湾新政権が中国分裂を推進するのを防止するとして、台湾へ積極防衛策を展開することだ。

その場合に第一歩となるのが、台湾海峡の軍事封鎖である。軍艦を並べて威嚇しながら、潜水艦で海底ケーブルを破壊し、第二海軍（民間漁船を偽装する）を大規模に金門島などへ上陸させる侵略攻撃だ。

台湾海峡有事となれば、商業船舶などは航行できなくなる。食糧とエネルギーの大半を輸入に頼る我が国は、途端に困り果てることになり、日本経済も政治の安定も吹っ飛んでしまうこととなる。

月刊日本四月号の特集「絶望の食料自給率」の中で、東大大学院教授・鈴木宣弘氏は「台湾有事で国民は餓死する」というショッキングな対談をしている。日本政府がアメリカの言いなりで食料自給率を低く抑え続けているツケが回って来て、食糧危機のリスクが高まっていることを心配し、日本農業の復活と復権を強く呼びかけている。アメリカの国益に反する「日本の食料自給率の向上」

を、永田町と霞ヶ関はスクラムを組んで進めなければならぬ。アメリカの妨害と圧力は必ずあるだろうが、それを跳ね飛ばさなければ日本人は餓死するかアメリカの食料奴隷になるかである。

世界が戦争や混乱に向かっていく二十一世紀、日本だけが能天気な「反戦平和」とお題目を唱えているだけで大丈夫なのか。軍需産業の復活や超新兵器開発と食料自給率というものを、車の両輪と考えるしたたかさが必要だ。

来年度から始まる「港湾荷役機械の水素稼働」

来年度から国土交通省が神戸港と横浜港で実証実験に入るのが、ガントリークレーンなど大型荷役機械の水素燃料での稼働実証実験である。現在の重油やガソリンでのエンジンから、水素発電でのエンジンに切り替えるのは大変な作業だが、移動式の水素充填機を配備して取り組むとしている。

現状では、まだ水素はオーストラリアなどで天然ガスから取り出す方式しか利用できないが、十年後には水に高電圧をかけて水素と酸素に分離して利用できる見通しだという。

そう言えば以前、マツダのロータリーエンジン車の初代テストドライバーだった人から聞いたことがあるが、五〇年前のロータリーエンジン開発当時には「ゆくゆくはマツダのロータリーエンジンは水だけを燃料にして水素を作りながら走れるようになる」とプロジェクトの技術者たちが話していたそうだ。水に高電圧をかけて水素を発生させて、その水素をロータリーエンジンで爆発させて車が走れるということだったが、最初にエンジンを回す時の高電圧をどうするかで頓挫していたようだ。

さて、国土交通省の近畿地方整備局は今年二月、神戸港のディーゼル発電機で稼働している大型の港湾荷役機械を水素エンジン発電機に替える実証実験を行なう計画を発表し、コンテナターミナルのガントリークレーンなどを対象にする事とした。水素は岩谷産業が供給することとなっており、神戸港を管理する阪神国際港湾が受託する契約になった。

岩谷産業は五年前から、水素自動車に供給する水素スタンドを全国展開する計画を安倍政権

軍事的にアメリカに依存している日本、韓国、台湾の三カ国が連帯して、東アジア安保同盟を築くことが重要だが、その為にも三カ国の国民が食糧難にならないように対策することが急がれる。

それをも踏まえて、台湾新政権には大きく期待せねばならない。韓国も心配であるし、それ以上に日本は政治的に心配だ。心配が杞憂に終わりますようにと、水面下で必死の努力を続けている人たちの輪に、我々も協力せねばならない。

に提出していたが、大手自動車メーカーの反対に安倍政権が腰砕けになって話が頓挫していた。当初は水素自動車には本体の半額以上の補助金を出して優遇し、全国二〇〇kmごとに水素ステーションを建設する計画まで話し合われていたが、自動車メーカー、石油元売り、労組連合、そして財務省の顔色を窺いながらの及び腰では計画を実現できなかった。水素ステーションは申し込みに、東京や堺市に出来たのだが、水素自動車は走行距離が最高で四〇〇km程度だから、実際の役には立たないものだった。



時代はEV電気自動車に席巻されたかのようになり、トヨタやパナソニックのバッテリーは急速に進歩した。そのバッテリーに電気を供給する為には電気ステーションが必要となるが、その電気を自動車自身で作ってしまった方が合理的だということで、水素エンジンが見直され始めた。

今はまだ水素をステーションで供給しなければならぬが、将来的には水の電気分解で水素を得ることが可能となる。実は今、この「水素発生装置」の開発が世界戦略の最先端にあるらしい。水素の爆発力は凄まじいもので、自動車エンジンだけでなく、軍事利用の面で開発が進められており、だからこそ特許の取り合いと秘密の探り合いがスパイ合戦となっているのだ。

水を電気分解して水素を発生させて利用できるようになれば、大型船は燃料を積まなくてもよくなり、発生装置の小型化に成功すれば民生も軍事も革命が起きる。

十年後に日本が世界の先進工業国になれるかどうか、今回の実証実験を最初の踏み台にして様子を見てゆきたいものだ。

足し算よりひき算で

少子化と高齢化が進む中で、この夏から携帯電話もスマホよりガラケーに回帰する動きが出てきた。5G対応の二つ折りガラケーが通話に特化して登場する。年寄りが増えてくる世の中で、何でもスマホだけあれば可能だという歪な社会は、若者や子どもにさえ負担が大きい。スマホにアプリを入れて儲ける企業だけが潤うことが、便利や快適とばかり喜んで宣伝している「営業マスコミ」には解っていないだろう。

スマホに友人の連絡先も予定も入れているし、身分証も診察券も財布も入っている。充電さえあれば、何も持たなくても良いと考えていた「足し算」の発想は、先日発生したマクドナルドのシステム障害で冷や水を浴びせられた。現金を持たずに外出する人が如何に多いのかを実感させられる事件だったが、マクドナルドのカウンターで何も

買えないとパニックになる若者や外国人観光客がニュース映像に溢れた。カードもスマホも使えないのに、現金も財布も持っていない人は店頭で困り果てた。コンビニのATMが動いていたからパニックは拡大しなかったが、これからは「これ一つ有れば何も要らない」という発想から脱却しなければ、中共が計画中のサイバー攻撃の対象に「大手チェーンのシステムを混乱させてパニックを起こして社会不安を作り出す」という目標を追加させることになる。

電話は電話、財布は財布、手帳は手帳なのだ。何でもスマホに入れておけばという「足し算」の発想から、本来は便利だけを求めるのは間違いかもしれないと発想を変えて「引き算」するべき時代になった。それを象徴するのが、今夏の5Gガラケー発売である。

甲子園の入場料金が野球チームに水を差す

テレビで甲子園春の大会を見てみると、アルプス席の応援団が少ないことで、盛り上がりレベルが下がっていると感じた人は多いと思う。聞いてみると「アルプス席の入場料金は一、二〇〇円」という話で納得した。母校から応援団がバスを二十台仕立ててやって来ると考えると、約八〇〇人の応援団の入場料金は九十六万円である。

アルプス席が試合毎に入れ替えられて各学校の応援団が入れ替わるのだから、球場側は経営レベルで見えていないのだろう。だが、これでは野球チームに水を差すことにならないだろうか。

PL学園が優勝常連校だった昔、アルプス席は二〇〇円だった。一五〇円のかち割り水の袋と、五〇〇円の巻き寿司はスタンドでの定番だった。今はどうか。甲子園大会を見に行けば一万



円近くの出費になる。昔は木製バットは折れたら金が掛かるからと言って金属バットが出来た。グローブもボールも野球部の一年生が補修して何年も使った。ユニフォームもマネージャーが洗濯して繕っていた。少年野球から使っていたグローブを、高校に入っても使っている選手がいた。野球をやる子で金持ちは少なかった時代、野球が楽しくて仕方なかった。

今では、新基準の金属バットが義務になり、一本四万円の出費になり、グローブやシューズも新基準に合わせて揃えると五万円かかる。野球は貧乏人の子どもが楽しめるスポーツではなくなった。あー、昔は良かった…

日本の林業政策は破綻する

林業が没落して久しいが、昔は「山持ち」「山林王」と呼ばれるほど大金持ちの職業は林業だった時代が長く続いた。戦後に林業が急速に衰退する背景には、アメリカから「ラワン材」を使い、アメリカ材松を使いなどの圧力があつたことが挙げられる。材木は儲からないとなれば、山を管理す

る費用も困ってくる。山の管理は、実際には「木こり」の仕事であり、材木の切り出しも売り渡しも彼らの「家業」だった。ある代々の木こりに尋ねれば「山の規模にもよるが、数十軒の木こり集団で管理して、材木を切り出して売れば三割を山主に納めるしきたりだった」とのことだった。木

こりが儲からなくなり、木こりの家業が成り立たなくなってきたのが林業衰退の一因になっている。吉野杉や北山杉等の銘柄になると、一本を仕上げるのに八十年かかるそうだ。そんな気の長い家業なので、一度衰退すれば元に戻らない。

ところがバブルに入った頃から、日本の木材の良さが再認識され始め、全国各地で放置状態になっている山を何とか再生できないかと国会でも話題になり、都道府県に再生への取り組みが指示され、国も林業再生を模索し始めた。

放置されている山を都道府県の林業公社で買い上げるか、民間所有のまま公社が木を植えて数十年後に木材として売却し、その売却益を分配すると言う方式を始めた所も多い。兵庫県の場合、林業公社の事業として昭和四十年代から始めていた「育成林業」が、遺産相続をしない山林を保有している自治会や組合に分配する金も無くなり、とうとう六八二億円の借金返済に窮して解散することとなった。

兵庫県の外郭法人「ひょうご農林機構」は平成に入った頃から、同様の事業を県内の森林組合や自治会に呼びかけて「預金利率より儲かる」と誘って契約を進めた。自治会、組合、財産区などと結んだ契約は二万ヘクタール以上になり、計画通りだとみんなが儲かるはずだった。

高度経済成長期のままの需要が続くと考えていた国は、住宅建材の確保を国策として「分収造林事業」の旗を振ったが、国産木材の需要は回復せず、植林したものが商品として売却できるまでの年数も、当初予定より大幅に引き延ばさなければならなくなった。その間に、契約者である自治会、



組合、財産区には詳細や展望が知らされることはなかった。

兵庫県の契約者たちが、事業の破綻や解散、そして借金まみれだという事実を知らされたのは報道があつてからの事だそうだ。兵庫県の方から「山を返還する」と突然言われ、そんな山を返還されたら困ると言つて、今度は別の問題が発生し始めた。山の固定資産税はそれほど高くないのだが、防災上の義務を果たすための管理費用がかかるのだ。

昔は「木挽きと山賊は読み書き出来ない」などと差別され、木こりが儲かるようになってからも、会社や組合を作つて職員や従業員の肩書きを持たなければ差別される時代が続いていた。山主と木こりは別人格・別法人であるが、一体でなければ山が死んでしまう恐れがあつた。その古くからの事実を無視した「自然保護」「山林保護」の環境運動が、国民から歴史的事実を見えなくしたことも問題だ。その路線で走り出した政治家や役人も問題だ。

我々はよく「中国人のように目先の事だけ見ている金儲け」という言い方をしているが、その言葉がそっくりそのままブーメランで返つて来ている。

朝鮮半島の山林を全て伐採して日本攻撃用の船団を作らせたのは「元帝国」だが、元のモンゴル人などの遊牧民や狩猟民と日本人のような農耕民とは違うので、農耕民は「植えて育てて使う」DNAが強烈に存在するため、植え過ぎて育ちすぎて、使えなくなれば困るのである。日本林業の破綻は、目の前に来ている。

読者投稿

能登半島地震 現地の声〈第一回〉

田丸政盛

めでたいはずの年頭を大地震で迎えた能登半島。その石川県鹿島郡に本紙読者の一人が住み、今も不安の中で日々を過ごしておられる。そこで、ご本人やご家族、周囲の方々の体験や課題を、多忙の中で時間が許すかぎりお話しして頂くよう編集子から依頼した。掲載は今回のみでなく随時させて頂くこととする。

令和六年一月一日元日 午後四時十分、地震発生

昼過ぎまでゆっくり寝み、遅めの朝食の支度の頃でしたが、家内がまだ寝んでいたため台所で洗い物をすませ、そろそろ雑煮でもと準備をはじめました。

煮干しと昆布で出汁をとり家内が目覚ますまで一息つきながら外を眺めれば、例年に比べ雪も

なく晴れていい正月だなと晴れ晴れとした気分で見ました。

家内が寝ぼけながら起きてきたので、そろそろ食べようかと二人で用意しながらの時、突然揺れたのです。

私は冷静にガスの元栓を締め家内を寝床に戻し、枕、布団、マットレスをかぶせ私が上から重なりながら揺れや家屋は大丈夫か見つつ静かに待つ。約二分前後だったでしょうか。

携帯の防災メールが鳴りっぱなしですが家内に「怖いか?」と聞くと「大丈夫」と意外に落ち着いており最初の揺れが弱まると同時に屋内、天井等を見ながら寝床に戻ります。

再び家内をかばいながら揺れを把握。間隔を置いて揺れるのだが発生から地鳴りが止まらず地面がごろごろ横にうねってる感じで気色が悪い。あえて体感としては時化の際の船の底、もしくは強風時のヘリの離発着の感じに近いでしょうか。

地震自体は大きな揺れが止まってもまだ始まると言った感じで、概ね平均とれば四分から五分間隔と思われました。止まる度、家屋の確認の繰り返しです。

日が落ちるのは早く、暗くなり冷え出す時期なので、たちまち困難が予想されました。まず水は止まり屋内の配管は使えないので、ガスは元栓を切り次の揺れを待つだけです。

一階、二階の窓から確認すると、向かい正面の住人が道路に飛び出し、どうすればよいやら右往左往といった態。倒壊を恐れての動作と見えました。

右隣は反応が無く、左隣は老女とその娘の所帯で、老女の方は耳が遠い。娘さんの息子は二人いるのだが、幸い長男は大阪で次男は別宅です。老女は恐怖のあまり顔に生気が全く失せて呆然としていました。高齢過疎のため若者は少なく活気の無い所なので、このまま七十二時間は厳しいと思われました。

私はと言うと倒壊を恐れて外に出るのはいかえって危険と思い、家内をかばいながら次の行動待ちに決めました。発生から一時間弱で外は暗く冷えてきました。

午後六時、相変わらず防災、エリアメールが賑やかですが無視してやりすごします。私らは家屋の埃や塵にまみれ布団や床も同じ。天井や梁の状態を見つけていたため目に埃が入るのですが、そ

れを流す水も無いため、ただ痛い。

私は以前、コンクリート建ての建物の一階で天井が落ち埋まった経験があります。新築ビルだが手抜き民間工事で、屋根工事落としたという簡単なヘマでした。私ら田舎では減反政策のため田圃の跡地物件は要注意なので、今回の地震による倒壊はさもありなん。私は着工中のコンクリート建物だったので幸い助かりましたが崩れた瞬間は覚えがありません。

私らの所は倒壊しなくても地下に水脈がある為、井戸水を使う家も多く役場の水道と併用で使うので、夏場で干上がる時以外はあまりお世話にならないとの事です。

当然不利な部分は山と山に挟まれた所で水害、洪水に悩まされてきた所でしょう。ドブの側溝を頭に浮かべれば分かり易いと思います。側溝の両端が山で下る斜面で住むような家などです。



この地下の水脈で家屋が歪みやすく湿気を避けるため新しく家を建てる場合高床にしてついでに基礎をかなり高く上げる特徴があります。つまり外観上何ともないが屋根と屋内の傷みがひどいのが現状です。解体するにも費用がかかり、屋根がやられるのも前述のコンクリートと少し似てて、何事も中途半端です。不謹慎ではありますが今回の震災倒壊が羨ましいという声も聞こえてきます(無論オフレコ)。私は去年引越してきたばかりの余所者なので、少なからずの本音は参考になるのです。

さて午後六時も過ぎ、発生時の私ら屋内の感覚はというと、昔「ポルターガイスト」と言う心靈ホラー映画が流行りましたが、家中ドタバタガタガタと強い横うねりが続くといった風です。軽い脳震盪と船酔いみたいで足下がふらつく。遊園地のジェットコースターや音響を駆使した3Dバーチャルリアティーでも無理かな、と家内と笑っていましたが、家内は発生時に怖いかと私が尋ねると「別に今さら…」としゃべりしてらるので面食らってしまい、女性は強いなど実感しました。こんな時、男は肝が小さいものです。

家内も発生時脈拍八〇、私は八八、状態は良。車のアイドリングの様なもので即動けます。念の為パニックは無いか確かめる為、三点法の脈取りをします。何かと言えば、右手でも左手でも片方の手で脈を取りながら、取っている手の親指と人指し指で頸動脈を押さえ手と首の左右の脈が同時

に打てば心身は大丈夫で目安にはなりません。
私は幼少の頃より教わっていて、仮に脈がバラついていれば心身が整っていないか、もしくは身の危険を知らせる予知信号だと祖父から聞きました。忍者の基本だとか…。この方法は私が自衛官時代、僅かではあるが先輩も上官も同期の者も知りませんでした。祖父は欠かさず

「歯が生える」新薬が開発される

大阪の北野病院では、歯科口腔外科の外來に「無歯症」の子どもを連れて泣きながらやって来る母親が年間数人はいらそうだ。日本では1%以下だが、生まれつき歯が一本も生えない子どもがいるそうで、遺伝子の異常が原因らしい。有効な治療方法も特効薬も存在しない厄介な病気の一つだと言われている。

北野病院では、遺伝子の解析によって「USS G A I R」という乳歯と永久歯の生え変わりをコントロールする遺伝子を見つけた。これが無限に生え変わるかもしれない能力を抑制する性格を持ち、人間は二回しか歯が生えないという常識を

地で行っていたそうですが、現在の健康ブームとは別に生活の知恵として取り入れたら良いのではないかと思います。

その他色々あったがさておき、家内共々安定しているので外へ見回りの準備を始めます。火気、ブレーカー点検は発生時点で終わっているが、再確認。
(つづく)

作っていた。この遺伝子の能力を制限し抑制力を弱めれば、もしかすると歯は何回でも生え変わるかも知れないという実験が始まった。

マウスの実験、犬の実験を繰り返し、どうやら人間にも適用可能だと判断され、近く臨床が開始されるころまで来た。

噂では、一回一〇〇万円ほどの実費が必要らしいが、「USS G A I R」の抑制新薬が厚労省に認められれば、次期ノーベル賞は確実だ。毛生え薬が発明されればノーベル賞は確実だと長く言われてきたが、もう「歯生え薬」が話題になる世の中になったのである。

ゴジラー1.0にアカデミー賞

ゴジラー1.0がアカデミー賞の視覚効果賞を受賞した。日本映画では初めての事だ。アカデミー賞の会員が驚いたのは、出来映えの素晴らしさに比較して、格段に安い製作費にある。ハリウッドで同様のVFXやCGを使って作品を作れば三〇〇人で一〇〇億円以上かかるところが、日本の制作グループ「白組」は三〇人で十五億円で楽々と作り上げたのである。新しい時代の特撮映画は、「白組流」の制作技術に移行するだろう。しかし映画は「一に脚本、二に演出、三四が無くて五に演技」と言われる世界なので、面白い原作と脚本を演出上手な監督が作り、上手い役者が演技をするという原点は外せない。



今年のアカデミー賞の受賞作を貫いているのは、「戦争の終結」という場面を多角的に見て行くこうとする姿勢にある。アカデミー賞の委員会は、平均年齢六十五歳、白人、富豪、社会的地位

位のある数十人で構成されているが、受賞作をノミネートした作品の中からしか選んではならないという決まりがあるので、どんな作品をノミネートするかはその年のアカデミー賞委員会の思想を反映している。今年は、戦争を終わらせることと、戦争が終わった後の社会を模索することに注目しているようだ。

本部、地方事務局活動報告

■本部・九州事務局

◇三月二十四日(日)

・硫黄島の戦いの中、ルーズベルト米大統領に手紙を送った唐津の英雄・市丸利之助中将の顕彰祭「第七回柏邨忌」を唐津神社にて開催。本党森田党首と野崎九州事務局長が実行委員に参画し、午前十一時より神事および直会。午後一時から講演会を行なった(写真表紙)。

■関西事務局

◇三月二十九日(金)

・午後六時半より、タイポハウス軸索社に於いて、むすびの集ひ勉強会。五名出席。学習テーマは「内部矛盾を外部に転嫁するのが中共式」など。